

令和3年度第3回法政策等フォーラム型実験小委員会議事概要

- I. 日 時：令和4年3月30日（水）16:00～18:00
- II. 場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局 ネット会議（ZOOM 使用）
- III. 出席者：中村主査、高嶋委員、佐渡友委員、井上委員、菊池委員
事務局：井端事務局長、中村

IV. 確認および検討事項

1. 「2021年度法政策等フォーラム型実験授業」の実施結果の確認

(1) 掲示板による意見交流

電子掲示板に7本のスレッドを開設した。中村ゼミ5本、井上ゼミ3本、高嶋ゼミ1本に対する書き込み総数は69であった。

- * 健康と福祉について解決すべき問題を検討する・・・ (10件)
- * 健康と福祉について、とくにジェンダーの観点から・・・ (11件)
- * 動物と人間の健康と格差社会について・・・ (26件)
- * 沖縄と貧困問題（地域的貧困を断ち切る－日本で最も貧困を抱える沖縄を救う）・・・ (13件)
- * 日本の健康政策・・・ (4件)
- * 日本の福祉政策・・・ (2件)
- * 日本社会において残業をなくすには・・・ (3件)

特に、沖縄と貧困問題の「地域的貧困を断ち切る－日本で最も貧困を抱える沖縄を救う」の検討においては、沖縄在住の研究者(神澤真佑佳氏)と学生との間で有益な意見交換が行われた。具体的には、神澤氏からは沖縄県における生活コストの高さや本土との位置関係に係る輸送コストの問題など、学生が気づかないポイントについて、現地の研究者の視点からの指摘がなされた。また、これに対して学生からもその指摘を踏まえた新たな提案がなされ、それについても神澤氏から新たな情報が提供されるなど、学生と学外有識者との議論が成立した。この議論の成果は、学生による最終発表において十分に活かされ、最終発表における提案に深みを与えたと評価できる。

また、「動物と人間の健康と格差社会について」は、SDGsの15番「野生動物の保護、回復」と関連させた議論が精力的に行われた結果、全テーマの中で最も書き込み数が多く、学生と学外有識者との意見交換が議論に厚みを与え、わが国の現状と法令の状況、裁判例、諸外国の法令と新しい動き等を把握した上で将来の制度設計につながる共通認識が得られた。

なお、「健康と福祉について、特にジェンダーの観点から」に現状の指摘と問題提起が行われたが、目立った議論の成果は得られなかった。

(2) 合同発表会

2022年1月8日13:00～16:30にZoomミーティングによって、神奈川大学中村ゼミ、井上ゼミ、京都産業大学高嶋ゼミ並びに有識者として外部から3名（廃棄物資源循環学会事務局の鍛冶美行氏、小豆島消費生活センター消費生活相談員の平林有里子氏、沖縄大学経法商学部の神澤真佑佳講師）と、委員会の早稲田大学政治経済学術の縣公一郎教授1名の参加を得て、3ゼミナールの合同発表を行った。

発表は、井上ゼミ3チーム、中村ゼミ5チームおよび高嶋ゼミは高嶋教授によるゼミ活動報告が順次なされ、外部有識者からの質問や内部有識者による指導なども適宜行われた。

(3) 成果と課題

【成果】

- ① 各チームが問題を発見して取り組んだテーマが多様で、かつ討論や検討も優れて学問的であった。SDGsの観点からの批判的検討が十分に行われており、いくつかのチームにおいては自分たちの到達した結論に対する内省的な批判も見られ、深化した議論がなされた。
- ② 掲示板における学外有識者との議論が最終発表にうまく活かされていたことも特筆すべき点と言える。「地域的貧困を断ち切る－日本で最も貧困を抱える沖縄を救う」においては、当初学生の構想は数行の文章に過ぎなかったが、最終的には詳細な図表や説明から構成された提案となった。

- ③ 最終的なプレゼンテーション自体が十分に学術的な研究発表の域に達していたと評価できる。最も短いもので11分、最も長いもので24分となっており、概ね発表内容自体よく練られており、ほとんどのチームにおいて主張の骨子も明瞭であった。

【課題】

- ① 最終的なプレゼンテーションが相当に学術的となってきたことから、その論旨ないし発表自体の構成もさらに学術的によりよいものになりたい。発表に際してきちんとリサーチクエスチョンを立て、問題意識の起点とチームが到達した結論との間に明瞭な一本のストーリーを構築することを、指導したい。
- ② 掲示板における学生と学外有識者との意見交換・議論をより活性化させる工夫が必要である。学生に対して掲示板への記事投稿・議論についてどの程度積極的に取り組んだのか聴取りをした結果、「どのタイミングで誰が記事の投稿をすべきか指示をして欲しかった」、「最初に投稿された記事が詳細なのでそれ以上何を追加すれば分からなかった」、「テーマによってはオンラインでの教員や学外有識者の的確な助言や情報の参照が少なかった」などの意見が判明した。

何かの指示を待つのではなく、自発的に議論を展開してもらう趣旨で掲示板を開設しているので、そのことを理解させる必要があった。

(4) 次年度に向けた改善策

- ① 教員による的確なアドバイスや情報の参照により議論が活性化することは、「動物の保護」、「沖縄の貧困問題」をテーマにしたスレッドの議論が他と比較して際立って優れていたことから裏付けられる。来年度は、教員及び学外協力者の専門分野も加味してテーマを選定するとともに、積極的に本授業にコミットしていただける協力者をどのように確保するかが重要な課題である。
- ② 掲示板での書き込みによる意見交流には限界があるので、これまでの方針から話し合いを優先するZoomに転換する。その上で、学外有識者が積極的に関わられるよう、テーマを限定（「ネット不正広告の影響を考える」など）して専門的な知見を紹介できるようにする。例えば、有識者から最初にプレゼンテーションを5分程度行い、問題を投げかけるなどにより、参加学生全員と顔合わせを行うなどの工夫が考えられる。運営委員による啓発ビデオを作成することも考える。
- ③ テーマに沿って有識者がどのように参加するのか、ある程度議論のシナリオを考えて、議論の立て方を委員会で考えておくようにする。その上で、参加学生全員でZoomを用いて理解の共有を徹底することが必要となる。参加学生にとって、自分の考えを筋道立てて言えるような訓練につながるという実験授業の目的意識を持たせられるよう、啓発ビデオによる工夫を考えることにした。

3. その他（次回開催日等）

今回は、6月4日午後2時から2022年度の具体的な取組みを検討することにした。